

西光寺だより

第七十三号 平成二八年 九月一日発行

●今月のことば●

今回は道綽禪師でございます。

道綽禪師は曇鸞大師におかれること一世紀、道綽禪師もやはり中国北部にお生まれになり、十四歳で出家され最初は涅槃宗の学僧でありました。しかし四十九歳の時、曇鸞大師の住寺に移り住み、大師の碑文を読んで感激し、念仏行者になりました。著書に『安樂集』二巻があり、その中で仏教全体を聖道門と浄土門の二種に分類しておられ、末法思想に心酔された禪師は自力の修行によってこの世でさとりを開く聖道門は適当せず、浄土に往生して仏となる教えである浄土門こそ唯一の道だと述べられ、人は他力往生の道を歩むべきだとお教えになりました。

道綽決聖道難証・・・道綽禪師は聖者の自力修行の教えでは証（さと）り難いと決められて

唯明浄土可通入・・・ただ往生浄土の教えこそが仏さまのさとりを得る道であると明らかにされた

万善自力貶勤修・・・そして多くの万善（善根）を積む自力修行を退けられて
円満徳号勸専称・・・功徳を円満にもっている名号（円満功徳）を称えることを勧められた

三不三信誨懇勤・・・「三不信と三信」の教えをねんごろに示し
像末法滅同悲引・・・正法・像法・末法・法滅のどの時代でも平等に救う法を明らかにされ

一生造悪値弘誓・・・一生涯、悪を造り続けても本願を信じれば
至安養界証妙果・・・阿弥陀如来のお浄土（安養界）に往生して、仏のさとりを開くといわれた

（法蔵館正信偈もの知り帳・レッツ正信偈参考）

【解説】

●万善自力貶勤修・・・「万善の自力」とは、念仏以外の自力で行ずる諸善万行のことで、聖道門のことであります。なので、末法時代では相応できないから退けることを意味します。

●円満徳号勸専称・・・「円満の徳号」は、功徳の円満している本願他力の名号のことで、もっぱら南無阿弥陀仏を称えることを勧められたことを詠まれました。つまり浄土門であります。

●三不信と三信・・・三不信は曇鸞大師『往生論註』の「称名念仏しても、往生を得られないものがあるのはなぜか」との問いに対して一つには信心が深くない、二つには阿弥陀仏一仏にまかせきっていない、三つには阿弥陀仏一仏以外のものをたのみにする心が混じって、信心が一貫しない、これらが三不信で、自力の信心のことをさしています。曇鸞大師の三不信を受けて道綽禪師は懇ろに三信を説き、他力真実の信心の相を示されました。

●正法・・・仏法（教）とそれを実践する行とさとり（証）が具わった時代。

●像法・・・教と行はあるがさとりは完成できない時代。

●末法・・・教だけしかない時代。

●法滅・・・すべてがなくなり、仏法が滅び尽きることを意味する。

親鸞聖人は『教行信証』で「いま、まことに知ることができた。聖道門のさまざまな教えは、釈尊の在世時代と正法の時代のためのものであって、像法や末法や法滅の時代とその人々のためのものではない。すでにそれは時代にあわず、人々の資質に背くものである。浄土の真実の教えは、釈尊在世の時代にも、正法や像法や末法や法滅の時代に変りなく、煩惱に汚れた人々を同じように慈悲をもって導いて下さるのである」と示されました。（現代語版五二一九頁）

●一生造悪値弘誓・・・現在は末法の時代であります。五濁悪世の世に生まれて、一生涯にわたって悪を造っていく私たちは、阿弥陀仏の第十八願（すべての人々を平等に救う）に依らなくては救われないのであります。

道綽禪師は念仏生活を続けられ、世の人々を感化されました。そして、自行化他（じぎょうけた）自らのために仏道修行し、得たものを他に教化することの生活を続けた後、唐の貞観十九年（六四五年）、玄中寺においてご往生になりました。八四歳でありました。

◆十・十一月の行事◆

・十月 一日（土）

仏教婦人会報恩講

午後一時

西光寺本堂

・十一月 二十三日（水・祝）

報恩講法要

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◆先月の報告◆

八月十五日（月）十八時より西光寺本堂にて盂蘭盆会法要を厳修致しました。先人の方々を偲ばせて頂きながら阿弥陀経のお勤め・お焼香をいたしました。また八月十五日は終戦記念日でもあります。日本政府は『戦没者を追悼し、平和を祈念する日』とし、全国戦没者追悼式を主催しています。

私たちは過去のさまざまないのちのうえで今という命を生きていることを決して忘れてはなりません。この日を重々しく受けとめ、皆さんでお参りをさせていただいたことでもあります。

そして、この盂蘭盆会法要の際に由来などのお話をさせていただいた後に、この「八月十五日」さんという名字の方がおられ、何と読むのかという質問をいたしました。「はちがつじゅうごにち」さんではありません。答が出なかったのでここで報告します。日本には、昔から季節の行事が多くありますが、その中の「お月見」は、現在では九月に行われ（その年によって日は変わりますが）もともとは旧暦の八月十五日に行うものだったそうです。お月見のことを「中秋の名月」と呼びます。八月十五日は「中秋の名月」です。その中秋を訓読みして「なかあき」さんと読むそうです。地域によっては「あきなか」さんと読むこともあるとか。以上です。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>